

# 栗東市総合計画審議会議事要約

平成30年11月27日(火) 午後1時00分～午後2時40分

栗東市危機管理センター3階 大研修室

## 【出席者】

委員：新川会長、清水憲会長代理、山口委員、小南委員、平田委員、清水久委員、  
鷹羽委員、内記委員、武村委員

事務局：市長、副市長、教育長、市民政策部長、市民政策部政策監、総務部長、  
福祉部長、子ども・健康部長、環境経済部長、建設部長(兼上下水道事業所長)、  
建設部技監、教育部長、議会事務局長、元気創造政策課事務局担当

## 1. 開会

(市民憲章唱和)

## 2. 挨拶

(市長挨拶、会長挨拶)

(省略)

## 3. 審議事項

(1) 第五次栗東市総合計画後期基本計画の進捗状況について

### 《資料説明(事務局)》

(省略)

### 《質疑応答》

#### 委員

---

市民アンケート調査の結果では、安全・安心に暮らせるまち「防犯のまちづくり・消費者を守るまちづくり・交通安全のまちづくり」(資料1, P.5)において目標値を下回っているが、部の自己評価は低くない。これをどう評価しているか。

#### 事務局

---

次期総合計画に向けた設問では、「災害に強く犯罪の不安のない安全なまち」を求め  
る回答が多かったことから、市民のこれらに対する期待が大きいことがうかがえる。

## 委員

---

同じくアンケート結果で、まちを支え活力を創出する産業のまち（資料1, P.6）で全ての施策が目標値を上回っているが、取り組んだ成果が反映されているのか。

## 事務局

---

他の施策と比較すると目標値が低いため達成できたと認識している。

## 委員

---

上期の進捗状況で達成度が低かった施策について、それにはどのような要因があり、下期にどのような取り組みを行うかを示してもらいたい。例えば、「子どもの健やかな育ちを支えあうまちづくり」では、児童館が休館となって達成度が2であるが、その要因と今後の取り組みは。（資料2, P.1）

## 子ども・健康部長

---

人員が確保できず児童館2館を休館したことから低い評価となっている。9月から開館できたが、本来の開館日は週3日のところ週1日となっており、今後も募集を続けて週3日の開館を目指す。

## 委員

---

有資格者を募集しても集まらない要因は何だと分析しているか。絶対数が不足しているのか、あるいは処遇に魅力がないのか。

## 子ども・健康部長

---

子どもの人数が増えている湖南地域では保育士の絶対数が不足している。潜在保育士の掘り起こしを行うとともに、賃金の見直しや希望者への館内案内など細やかな対応を行っている。

## 委員

---

施策によって部の達成度と課の自己評価に差があるなど、組織横断的な連携が図れていないことが読み取れる。

## 環境経済部長

---

部と課でそれぞれの取り組み方針について評価した結果であるが、ご指摘のとおり全体的な考え方や整理が必要であると考えている。

## 委員

---

公共下水道の不明水対策にかかる調査では、費用対効果が得られているのか。

## 上下水道事業所長

---

目に見える効果はまだ出ていない。各市町で不明水対策を進めても、全県下で進ま

ないことには費用対効果が見えてこない。

## 委員

---

一定の効果が期待される対策に費用を投じないと無駄である。例えば、その分の費用を先ほどの保育士確保策に充てるなど、一度考え方を整理する必要がある。

## 委員

---

資料からは部・課単独の施策で終始しているような印象を受ける。地域ブランド、シティセールスは今後重要性が増してくる事業だと思うが、組織横断的に取り組まなければならないものであり、意思決定はどのようにされるのか。

## 市民政策部政策監

---

シティセールスについては、全国的に活躍されている方に広報大使となっただき、本市を宣伝していただく取り組みを行っていく。また、地域ブランドについては、どういったものをブランドとして認定していくか、その選定作業中である。シティセールス、ブランド認定については、どちらも1課が庁内の取りまとめを行っている。

## 委員

---

農林業技術センター、こんぜの里、森林体験交流センターの管理運営事業は自己評価が「4」となっている。評価の基準としては、当初目標を大きく上回ったということだが、指定管理料を下げても管理委託できているということか。

## 環境経済部長

---

指定管理料は前年度と変わらない。公共施設管理計画に基づき適切な維持管理が図れ、また、一定の利用者に活用いただけた。

## 委員

---

当初見込んでいた利用者数を大きく上回ったということか。

## 環境経済部長

---

大きくとまでは言えないが、前年度実績以上に活用いただくことができた。

## 委員

---

トップセールスの実施が1社にとどまっているとして、「2」の評価をしているが、定量的な判断基準では達成度が80～100%ということになる。当初の目標は何社なのか。(資料2, P.3)

## 市民政策部政策監

---

年間5社以上を目標としている。この施策は数値だけで評価しておらず、複数の企業に働きかけを行ったが、実施に至ったのは1社であったことを踏まえて総合的に判

断した。

## 委員

---

自己評価の目線に疑問がある。評価の整合性が図れているかが読み取れない。

## 市民政策部政策監

---

今後、わかりやすい評価に努める。

## 会長

---

数値を基に判断するもの、総合的な判断をせざるを得ないものなど、施策によってそれぞれの性質があるため、今後はその点を配慮して評価いただきたい。

## 委員

---

食育のまちづくりとして、新鮮で美味しく、安全で安心な地元産野菜を使った給食を提供しているが、食べ残しが多いと聞く。その原因は何か。また、食べ残しの量は。

## 教育部長

---

9月から新学校給食共同調理場で作った給食を提供しており、昨年度よりも食べ残しは減っている。具体的な数値は追って報告する。

(※食べ残しについて、同日に開催した地方創生懇談会において、次の通り口頭で報告)

→平均残渣率 中学校：旧給食センター 約20%、新給食センター 約7.5%  
(9月現在) 小学校： " 約6.8%、 " 約6.6%

## 教育長

---

いつも美味しい食材を提供いただいていることにお礼を申し上げます。特に中学校給食は、残渣が多いことから提供を中止した経過があり心配していたが、直接学校に向いて校長から話を伺ったところ、給食が以前より美味しくなったと大変喜んでもらっているようである。今後も安全安心な給食を提供し、残さず食べてもらえるよう努める。

## 委員

---

有機米などは栽培方法にも力を入れているが、米は炊き方も大事である。せっかく良い米を作っても炊き方が悪いと味が落ちてしまうので、その点にも配慮をお願いする。

## 会長

---

自己評価で達成度が遅れている施策や市民アンケート結果で目標値を達成できていない施策は、その原因等を分析して取り組むこと。内部評価の基準について、指摘があった内容に留意して、下期に成果を出してもらいたい。また、組織横断的に考えないといけない施策についても同様に取り組み、下期の進捗に尽力いただきたい。

## 4. その他

### 《説明（事務局）》

本日出し切れなかった意見については、12月7日を目処に別添ご意見シートにより提出をお願いしたい。

## 5. 閉会

以上